

表裏ずれ調整作業手順 (Macintosh)

本調整は、裏面の画像の位置や大きさを基準として、表面の設定を合わせて行います。
また、表面を基準として裏面を合わせることも可能です。

両面印刷の綴じ方（長辺綴じ / 短辺綴じ）ごとに調整してください。

ご使用の用紙トレイごとに調整してください。

同一用紙サイズでもトレイにセットする用紙の向きが異なる場合は、再調整が必要になることがあります。

ページ間のばらつきが発生するため、おおよその目安として調整してください。

この調整機能は、プリンタードライバーの Ver.1.0.8 以降で使用可能です。

制限事項

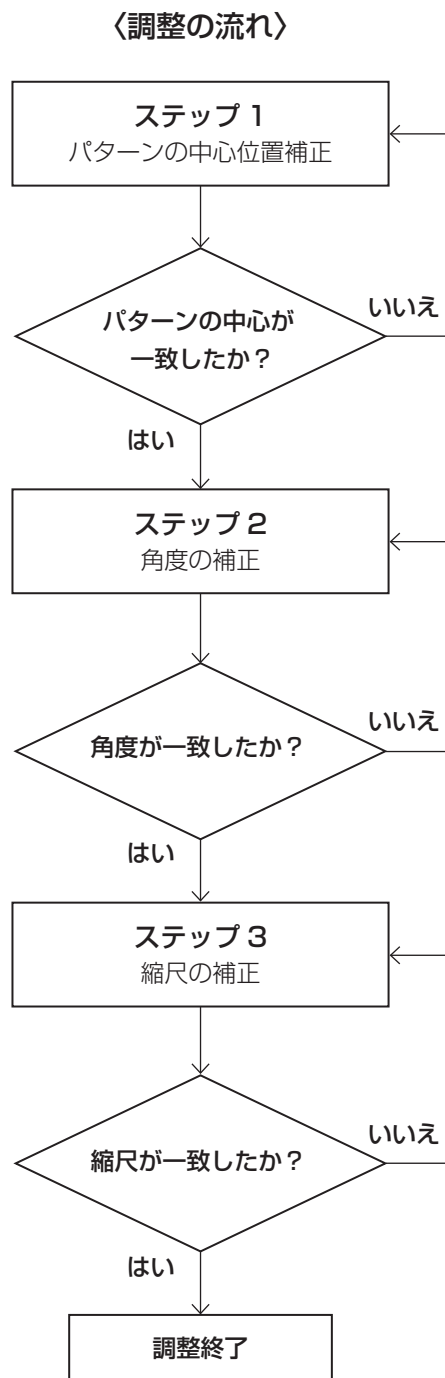
- Mac OS X 10.5 以降で対応しています。
- N-UP 印刷では、調整が正しく行われなかった場合があります。
- アプリケーションにより、調整が有効とならない場合があります。
- 調整により、印刷パターンが欠ける場合があります。
- 調整により、線に微小な段差が発生する場合があります。
- プリンターの解像度設定や印刷データのファイルサイズにより、調整すると印刷時間が長くなる場合があります。
- アプリケーションの印刷ダイアログと印刷位置補正の印刷ダイアログが別に表示されるアプリケーションでは、下記の制限事項があります。
 - アプリケーションの印刷ダイアログで「プリンター」ボタンをクリックし、開いたダイアログで調整を行い、補正値を保存した後、アプリケーションの印刷ダイアログに戻り、再度ダイアログを開くと、保存した補正値が反映されていない場合があります。
 - この場合、アプリケーションの印刷ダイアログを開き直すと、保存した補正値が反映されます。
- 調整結果はプリンタードライバーに保存されます。複数のプリンタードライバーをご使用の場合は、それぞれのプリンタードライバーで調整してください。

表裏ずれ調整の流れ

表裏ずれの調整は、以下の3ステップに分けて行います。
いずれのステップも表面を裏面に合わせます。

- ステップ1 パターンの中心位置補正
- ステップ2 角度の補正
- ステップ3 縮尺の補正

調整の流れを右図に示します。

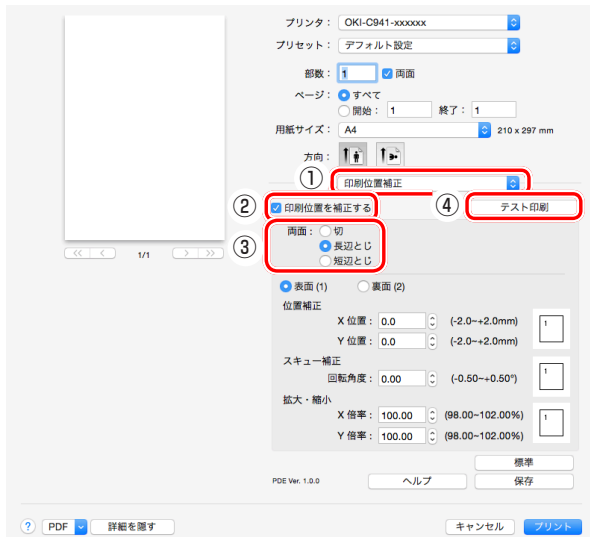


ステップ 1 パターンの中心位置補正

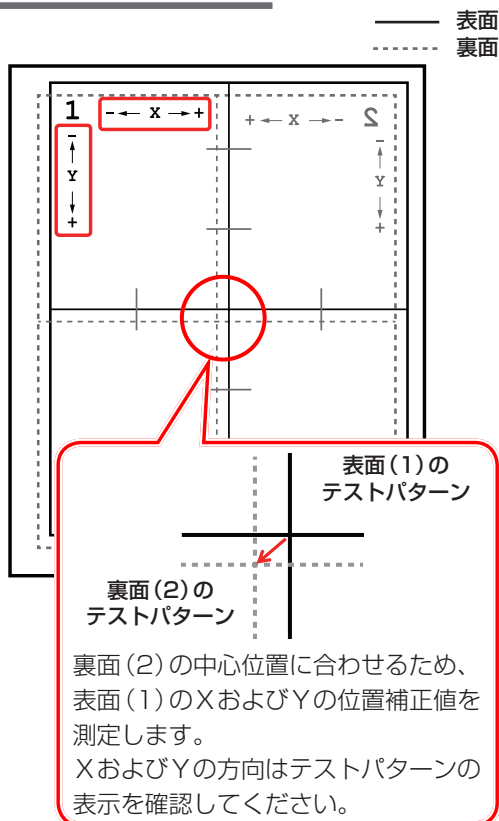
プリンタードライバーのテスト印刷によりテストパターンを印刷し、位置補正值を決めます。

1. テストパターンを印刷する

- ① [印刷位置補正] を選択します。
- ② [印刷位置を補正する] にチェックを入れます。
- ③ ご使用の印刷方法に合わせて両面印刷の綴じ方を選択します。
- ④ [テスト印刷] をクリックします。



2. 位置補正值を決める

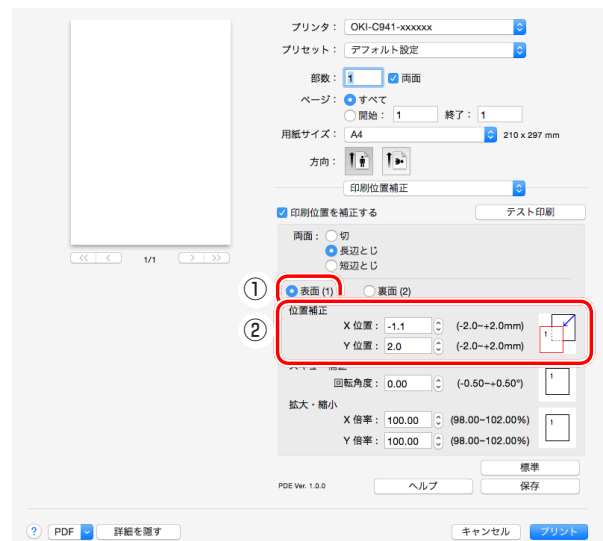


3. 位置補正值を入力する

表面の位置補正の欄に位置補正值を入力します。

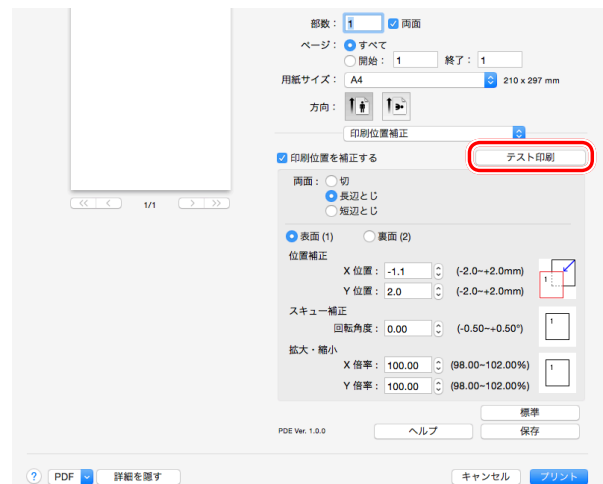
- ① [表面(1)] を選択します。
- ② 位置補正值を入力します。
画面の入力値は設定例です。

調整量 (初期値 = 0.0)
X: +/-2.0mm 0.1mm 刻み
Y: +/-2.0mm 0.1mm 刻み



4. テストパターンを印刷する

[テスト印刷] をクリックします。



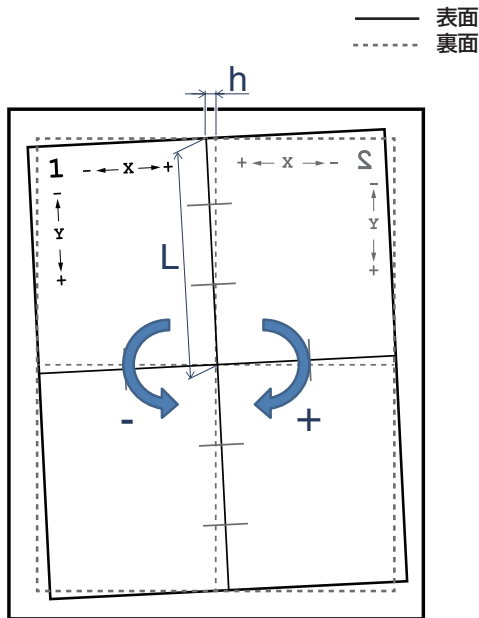
印刷されたテストパターンを確認して、中心位置が一致していれば、**ステップ 2**に進みます。
一致していない場合は、手順 **2.** へ戻り再調整をしてください。

ステップ2 角度の補正

表面の傾きを裏面の傾きに合わせます。
ステップ1で最後に確認したテストパターンの印刷結果を使用してください。

1. 補正角度を決める

テストパターンの印刷結果からLとhを測定し、補正角度を決めます。



補正角度の目安

L(mm) \ h(mm)	150	200	300	400
0.5	0.19	0.14	0.10	0.07
1	0.38	0.29	0.19	0.14
1.5	0.57	0.43	0.29	0.21

※ 補正角度は 0.51 以上の値は設定できません。
0.57 に該当したときは 0.50 とします。

2. 補正値を入力する

表面のスキュー補正の欄に補正角度を入力します。

- ①～③ 設定がステップ1の手順1.①～③の設定と同じであることを確認します。
- ④ [表面(1)] を選択します。
- ⑤ 手順1.で測定した補正角度を入力します。
画面の入力値は設定例です。

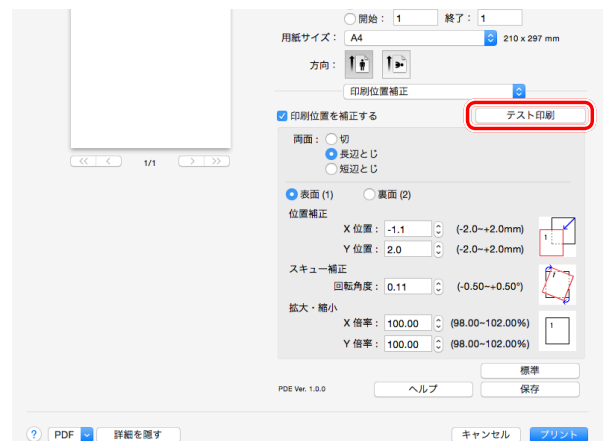
調整量 (初期値 = 0.00)

+/-0.5° 0.01° 刻み



3. テストパターンを印刷する

[テスト印刷] をクリックします。



印刷されたテストパターンを確認して、角度が一致していれば、ステップ3に進みます。

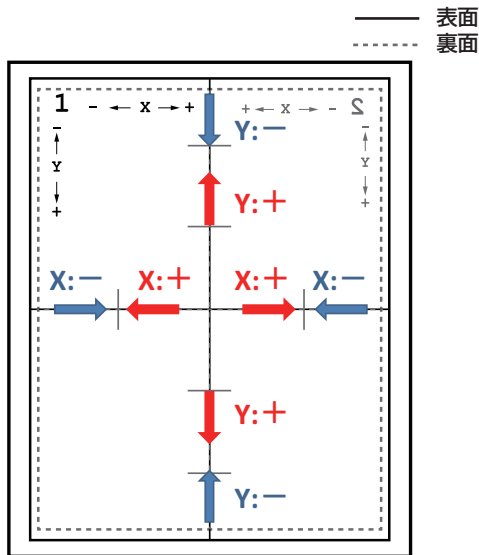
一致していない場合は、手順1.へ戻り再調整をしてください。

ステップ 3 縮尺の補正

表面のサイズを、裏面のサイズに合わせます。
ステップ 2 で最後に確認したテストパターンの印刷結果を使用してください。

1. 拡大量、縮小量を決める

テストパターンの印刷結果から短辺側および長辺側の表面と裏面の長さを測定し、その比率から X と Y の倍率を決めます。



2. 補正值を入力する

表面の拡大・縮小の欄に補正值を入力します。

- ①～③ 設定がステップ 1 の手順 1. ①～③の設定と同じであることを確認します。
- ④ [表面 (1)] を選択します。
- ⑤ 手順 1. で測定した X 倍率と Y 倍率の値をそれぞれ入力します。

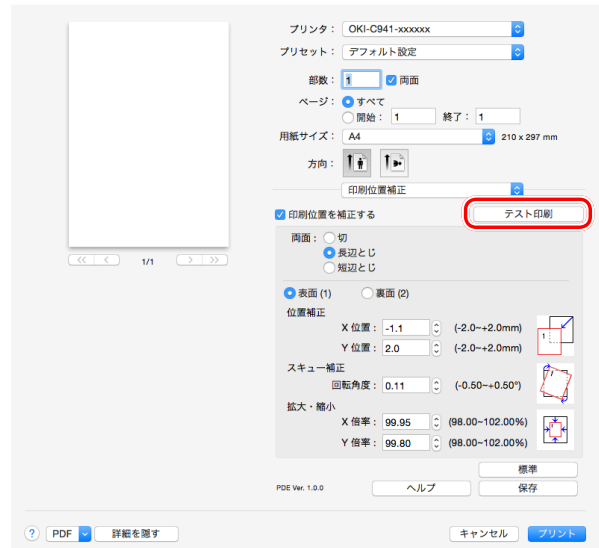
画面の入力値は設定例です。

調整量 (初期値 = 0.00)
X: +/-2.0% 0.01% 刻み
Y: +/-2.0% 0.01% 刻み



3. テストパターンを印刷する

[テスト印刷] をクリックします。

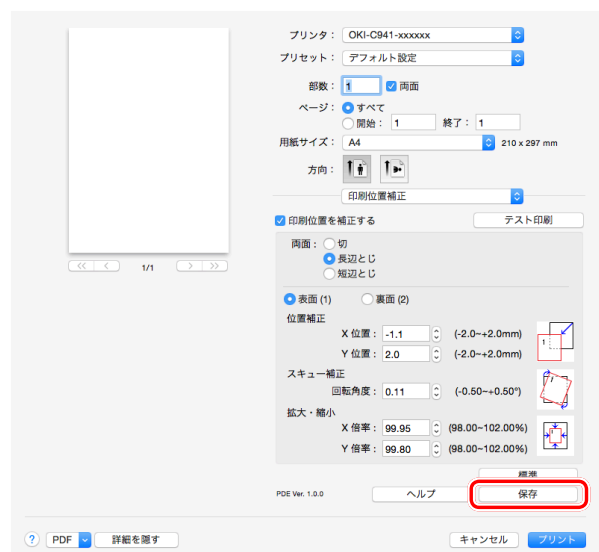


印刷されたテストパターンを確認して、縮尺が一致していれば、調整は終了です。

一致していない場合は、手順 1. へ戻り再調整をしてください。

4. 設定を保存する

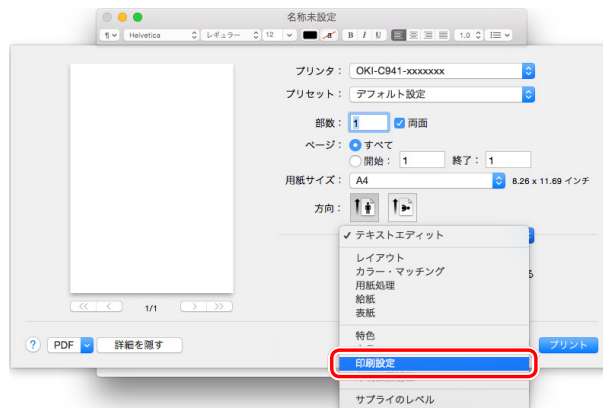
設定を保存すると、次回以降も同じ設定で印刷できます。



補足

ステップ2で角度の補正を行うと、細線の微小な段差が目立つことがあります。以下の手順で印刷品質設定を変更すると、改善する場合があります。

- ① 印刷ダイアログを開き、[印刷設定] を選択します。



- ② 印刷品位の [きれい (1200x1200dpi)] を選択します。



【Memo】

45992803EE Rev1

